

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372600979		
法人名	有限会社 アール・ザ・エイチ		
事業所名	グループホーム虹の家		
所在地	愛知県豊川市牛久保町天王下6番地の1		
自己評価作成日	令和5年9月26日	評価結果市町村受理日	令和6年2月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyoyoCd=2372600979-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階		
訪問調査日	令和5年11月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

虹の家では、個人の生活スペースを尊重した生活ケアの取り組みとして生活の基本となる食事に力を入れています。時には庭の畑で取れた季節野菜も加わり、利用者様の希望メニューを取り入れながら三食手作りでバランスの良い食事を提供しております。また、利用者様の健康管理にも気を付けており、家人に毎月近況報告の手紙を出しています。病院受診もスタッフが同行しています。レクリエーションの時間は意欲的に活動できるように、個人に合った運動・脳トレを支援しています。季節感を出す為の行事、室内装飾などもスタッフと共に製作しています。定期的にボランティアの方の訪問があり、地域の方との交流機会も設けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周りに田畑の広がる静かな住宅地の中に事業所がある。近くには小学校や保育園、喫茶店などがあり、近年新しい住宅も増えてきている。地域との関わりを大切にする創設者の意向を引継ぎ、住民との交流は深く18年の歴史が刻まれている。会社の理念を基に、「入居者一人ひとりの個性や思いを大切に」とする目標を職員皆が共有し、入居者のペースや能力に合わせた支援に取り組んでいる。四季折々の恵まれた自然環境の中で、散歩や買い物、地域での催し物や事業所内の催し物に参加しながら人々とふれあい、地域に見守られながら入居者は日々を過ごしていたが、コロナ禍において踏み止まっている。状況を確認しながら再開していく方向にある。四季の移ろいを感じ取れるような日々の散歩や車窓より季節の花見や街並みを眺める機会、初詣など通して、今までは違う形で地域との繋がりを保つように心掛けている。菜園で収穫をした野菜や地域の方々の御裾分けの野菜などを取り入れたりして、家庭料理を中心に入居者と共に献立を考え毎食手作りをし、豊かな食事を皆で楽しんでいる。開放感のある明るく清潔感のある居間で、絵や塗り絵をかいいたりテレビや新聞、雑誌などを見たり、楽しく会話をしながらゆったり過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に理念を意識しながら利用者様の個性を尊重したケアを行っている。ケアの情報交換は、業務内でその都度話し合い、また連絡ノートで情報共有をしている。	理念を玄関に掲示し、「誠意ある質の高い介護、穏やかでやさしさのある暮らし、和をもってお互いを尊重する豊かな心」を基本にして、今年度は入居者が「安全・安心に生活ができる」を目標に、一人ひとりの個性を尊重した支援をしている。穏やかに過ごせる様に申し送りや連絡ノートを活用して確認し、日々のケアを振り返りながら共有と実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で地区行事が中止されているため地域の人と関わる機会はないが、定期的に地域をドライブしている。定期的にハンドケアセラピー、傾聴、レクリエーション等のボランティアの訪問を受けていたが、現在はコロナ禍のため自粛している。今年度は実習生の受け入れを中止とした。	町内会に加入し、地域の行事や文化祭、近隣の学校行事などの積極的な参加は踏み留まっているが、状況を確認しタイミングを計らいながら再開を検討している。ホーム主催の「ふれあいの会」や生活支援ボランティアによるレクリエーション、実習生や中高生の体験学習なども自粛している。ボランティアの方の好意でお花を頂いたり散歩で挨拶を交わしたり、ドライブで車窓から四季の花見などをして今までとは違う形の交流となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設のイベントに地域の人々の参加を呼び掛けたり、散歩、買い物、地域の催しものに出かけ、言葉を交わしている。(現在は自粛)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外出行事、季節行事や防災訓練等の活動状況や利用者様の様子を紙面にて報告している。課題については意見をもらえるようお願いしている。	家族や民生委員、市議会議員、地域包括職員の参加を得て年6回実施しているが、現在も書面開催としている。事業所の運営や活動状況の報告、行事予定などをわかり易く工夫をし報告している。意見や提案等は電話や会議録送付の折に聴取し、職員で協議してサービスの向上に活かしている。会議録は家族へ送付し内容を伝えている。	運営推進会議の内容と「かわら版」の内容が類似している。運営推進会議は、事業所内の取り組みや地域との関わりなどを家族に知って頂く機会でもあるので、会議録内容の工夫をしたり、「かわら版」との内容の区別を明確にした書面作りを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ケアサービスの取り組みについては、運営推進会議で地域包括支援センターの職員に報告できている。相談のある時には来所している。	介護保険申請代行や活動報告等で担当窓口に出向き市との関わりを深めている。また、電子連絡帳システム三河ほいっぷネットワークを活用し「医療と福祉」、「自立と健康作り」へ参加し、市や医療機関などが発信する情報の入手や事業所間の情報の共有、医療連携など、より密接な協力体制を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。職員研修実施。	身体拘束をしないを前提に、職員は常に気配りをして事前に対処できる体制を整えている。個々の人格の尊重や人としての尊厳を大切にして身体や言葉、態度などによる拘束の排除に取り組んでいる。日中玄関は開錠して、入居者の安全の確保と拘束感のない生活が送れるよう配慮している。コロナ禍で職員全員の会議が見送られているため拘束関係資料や情報があれば回覧し、共有を図るようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はない。入浴時、着替え等、日々のケアの中でスタッフ同士で確認をしている。職員研修実施。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象者がいない為、話し合いをしていないが、今後学ぶ機会を設け理解を深めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の説明に納得された事を確認した上で手続きを進めている。利用者様が安心して生活ができるように家族から情報を得て話し合っている。改定の場合は書面にて確認を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、家族からの意見・要望はいつでも受け入れられる状況にあり、サービスの質の向上につながるよう取り組んでいる。	入居者からは日々の関わりの中から思いを聞き、記録して職員間で共有しケアに繋げている。家族とは、コロナ状況を確認しながら流動的な対応での面会を実施する中で聴取したり、電話連絡や着替えなど届け物の受け渡しの折に意見や要望を聞き、ケアや業務改善に役立てている。入居者の様子を担当職員が毎月書面で報告をしたり、年6回発行する「グループホーム虹の家かわら版」には行事の写真やコメント、予定などが記載され、家族に安心を届けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	気づきの内容により、個別又は当日の出勤者間で意見や提案に関する事を話し合い、サービス向上に反映している。	日常の業務の中や引継ぎ時また、カンファレンスなどで全職員からの提案や要望を聞くようにしている。管理者はパート職員を含め全職員と話しやすい関係作りに努め、随時話し合える機会を持ち、提案や意見、悩みなどを聞くようにしている。提案や、意見の内容によっては必要に応じて記録に残したり、職員全体に周知が必要な場合は閲覧するなどして業務や職場環境の改善とサービスの向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見や気づきを検討して、いつでも職員が働きやすい環境で仕事ができる様に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人に合わせての勤務の取り組みや職員間の協力で上達出来るように進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	電子連絡帳を利用して、他事業所間と情報共有をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の不安に対して時間の許す限り話を傾聴し、情報収集した内容はスタッフ全員で共有してサービスの向上に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時、サービス担当者会議にて家族の要望等を取り入れ、サービスを計画に取り入れている。サービス内容に関しての状況は、来所時や状況報告の手紙で知らせている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様、家族からの要望は実際の利用者様の状況に対してスタッフ全員で個人の情報を連絡メモに記入し、一番適した方法でサービスに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除・洗濯物干し・たたみ、食事の手伝い等と共にやっている。お互いが協力しながら生活できる様に考えを主張しあったり、話し合ったりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様、家族の話を良く傾聴し、どちらにも無理のないような関係が保たれるように支援している。気付きの点がある時は連絡をとり話し合いの中で共有する事に心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で回数は減ったが、その時々状況に応じて顔を見たり、話せるように努めている。	これまでの生活歴を入居者や家族から聴取して、大切にしてきた人や場所、物事などの継続支援に努めている。友人や知人と旧交を温めたり、喫茶店や図書館、公民館行事、買い物に出掛けるなどの支援をしているが、新型コロナの感染予防のため出向くことは少なくなっているが、初詣や四季折々の花見などは継続している。洗濯、掃除などの手慣れた家事仕事、畑の水やりや収穫の喜び、葉書や絵を描くなどを通して今まで培ってきた経験を日常に活かした支援と、共に喜びを分かち合える関係を築いている。家族と共に過ごせる時を、状況を見ながら再開していく心積もりをしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが調整役となり、おやつや時間やレク、散歩時などお互いが交流できる様に支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても相談等があれば今まで通りと同じように対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人をとりまく人々から情報を得て、本人の生活意欲向上につながるように計画に取り入れ対応している。外出行事など本人に合わせて行動している。	入居者の気持ちに寄り添って些細な変化に気づき、日常のさりげない会話などから思いや希望の把握をしている。また、個々の状態に合わせて、居室などの落ち着ける場所やゆっくりとした時間の中で聴くように努めている。思いの表出の少ない方は、身振りやうなづき、表情から把握したり家族や知人から話を聞いたりして、思いに寄り添う支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や今までのサービス利用関係者より情報を得た中で、スタッフ全員が日々の暮らしの中で関わり合いを持ちながら把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の利用者様同士の会話や、連絡ノート、記録により、スタッフ全員が共有して把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、担当スタッフ、ケアマネの参加で担当者会議を開催し、意見を出し合って現状に合った無理のない計画を立てて見直し、モニタリングもやっている。現在は来所時にお話をするようにしている。	日常の様子や身体状況の変化など記載した個人記録を基に3か月ごとにモニタリングを実施し、同時に計画の見直しも行っている。居室担当制ではあるが職員全員で生活状況と支援内容について変化や評価に繋げている。医師や看護師の情報も参考にして入居者や家族の意向等踏まえながら現状に即した介護計画を作成している。また、個人の介護記録に介護計画もファイルして全職員で情報を共有している。状態が変化した時は随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルがあり、バイタル、食事量、入浴、排泄、面会、外出記録、特記事項等にてスタッフが共有して具体的に書いている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様、家族のニーズに対応して現状に合った対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方との関りがあったが、コロナ禍のため自粛している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時の説明、確認をする事で納得の得られた病院を受診している。家族の都合により、スタッフが同行している方もいる。	入居時にかかりつけ医か提携医かの希望を聞いている。かかりつけ医の受診は家族の協力を得ているが、家族の都合により職員が同行支援をする方が多い。受診が難しい方は提携医の往診で対応している。歯科は必要に応じ提携医による往診が受けられる。また、電子連絡帳システムの利用により医師と連携体制が整っているため身体状況に変化があった場合や緊急時には速やかで適切な医療が受けられるように支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中で体調変化に気を付けているので早期発見が出来る。状態によりその日に受診対応して、申し送りによりスタッフ全員が共有している。受診が難しい時は往診に来て頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時に付き添ったスタッフにより医師からの情報を得ており、記録よりその時点の連絡を全スタッフで共有できる。病院より連絡が入った時は出掛けて説明を受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時の説明にて確認を取っている。急な体調変化等に対しては、家族と話し合い、最良の方法で取り組んでいる。看取りについては訪問医師、家族との意向に寄り添って取り組んでいる。	入居時に、重度化した場合や終末期についての説明と指針を明示して家族の同意を得ている。重度化する可能性がある場合や状態が変化した場合はその都度、入居者や家族に希望を再確認し計画の見直しを行っている。家族と医師が直接話し合い、看取り支援となった場合には、入居者にとって最善の援助ができるよう努め、希望に添った看取りができるよう支援をしている。職員のメンタル面についても配慮しながら取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内での研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害訓練を実施している。(火災、地震、水害)避難ルートはフロア、玄関に掲示してある。入居者全員の名簿を地区に提出している。また災害時の避難場所(小学校)に依頼し承諾を得ている。	年2回、地震や火災火災、水害や内水氾濫などの災害を想定して昼間、夜間の職員体制で避難訓練を実施している。特に大雨による水害が心配な地域のため高台にある小学校へ緊急避難できるよう避難誘導や避難経路についての確認や入所者名簿を提出している。今年度は豊川水害により生涯学習センターへ実際に避難を経験している。入居者個人の防災用ナップサックと防災頭巾を準備している。地域には運営推進会議を通じて避難誘導や見守りなど災害時の協力を依頼している。備蓄品はリストにより管理され、入居者と職員分を含め水や食料など1週間分が用意されている。BCP計画は作成途中だが検討しながら進めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の個人にあった声掛けをするように配慮している。他利用者様のいる場所でプライバシーに関する話はしないようにしている。	一人ひとりのこれまでの生き方を尊重し個々の生活スタイルを守り、誇りやプライバシーを損ねないよう配慮している。日々のケアの中で、馴れ馴れしさや特に雑になりがちな言葉使い、声のトーンや呼び名を統一したり、入居者の性格や人間関係に配慮して座席を配置するなど入居者が傷つく事がないよう確認し合いながら支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己主張の出来ない人は、居室等でゆっくり話をして思っている事や希望している事が決められるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活の流れはあるが、利用者様の体調、気持ちを尊重し、柔軟に対応する中で、個人のペースにあった生活を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家人に確認後、化粧品、衣類など利用者様個人の購入希望にスタッフが対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の摂取状態に合わせながら、(量や形態)食べやすいように提供している。声掛けにてテーブル拭き、手の消毒スプレー等の作業への参加を促している。	季節の食材や彩、栄養バランスなどに配慮して今まで慣れ親しんできた家庭料理を中心に毎食手作りしている。入居者のリクエストや量や形状だけではなく五感で食事が楽しめる工夫や気配りをしている。菜園で収穫した野菜を利用した料理、誕生日のお赤飯、ケーキ作りなど保有能力に合わせて準備や盛り付け、片付けなどその人の得意分野を生かし、職員と一緒にやっている。毎週日曜日のおやつ作りも楽しみにしている。職員も一緒に食卓を囲み食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月体重測定を実施、毎食食事量チェック、レク参加で活動量を把握している。水分量分かるように個人のボトルを用意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアをスタッフの声掛けで全利用者様施行している。夜勤帯で義歯を洗浄剤に浸している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックボードを利用し、食前又は食後はトイレ誘導をしてパターンを把握し、失禁減少に努めている。時間に合わせトイレ誘導をしている。	排泄チェックボードを参考に一人ひとりに寄り添い、生活の節目を目安にしてさりげなく声を掛け、その人に合ったトイレ誘導を行っている。日中は、布パンツや紙パンツを利用したり、個々の状態に合わせたパッドを利用してトイレで排泄の継続支援をしている。また、夜間でも尿意を感じ自分でトイレに行くことを大切にして、丁寧な見守りと誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、野菜、運動、牛乳など取り入れている。医師から指示の下剤使用者あり。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日に分けて決めている。夏場は清潔保持の為、希望者は毎日入浴している。利用者様により個々の援助を行っている。	入浴は一人ひとりの体調を考慮しながら週2回としているが、希望があればその都度入浴できる環境を整えている。浴室の清潔を保持し冬季は暖房にも配慮している。季節を感じるゆづ湯やしょうぶ湯なども楽しんでいる。入浴を拒む方には、声かけを工夫したりタイミングを見計らい、気分転換を図って気持ちよく入浴できるように支援をしている。皮膚状態は医師と相談し、ローション対応を実施される方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様個人の意志で自由に過ごせるように支援している。利用者様の体調に合わせてスタッフが促す場合もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の担当者が服薬セットを任されている。他職員とWチェックをしている。受診時の記録にて症状を全スタッフが把握し観察した内容を記事に残している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人一人の持っている力を発揮してもらえるように促し、実施している。施行後は必ず感謝の言葉をかけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	習慣として散歩に行っている。喫茶店、食事の買い物、図書館、催し物、行事等でも外出の機会を設けていたが、コロナ禍のため自粛している。現在は、車窓での見学と散歩をしている。	自然環境に恵まれ、四季の移ろいを感じながら毎日散歩に出掛けられる環境にある。菜園で四季折々の農作物の栽培や洗濯物干しを通して外気にふれる機会を持つようにしている。入居者の希望に沿って外食や買い物、喫茶店、図書館、作品展などを楽しむ機会があるが、現在は踏み止まっている。職員はコロナ禍においても状況を見ながら、入居者や家族の要望に応えられるよう支援方法を工夫している。初詣や車窓より季節の花見や街並み見学などは入居者の楽しみの一つとなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要物品は預り金にて購入している。職員と同行しての個人の買い物も家族の依頼により預り金にて購入していたが、現在はご本人様に好みを聞き、職員が代行している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状、暑中見舞い、その他の手紙もスタッフ見守りで書き、郵送している。家人より電話拒否のある方がいるため、用事がある人は用件をスタッフが伝えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関より共有空間はバリアフリーとなっている。家庭の延長の雰囲気大切に個々がリラックスして過ごせるように心がけている。	窓からは自然な採光や風が入り、畑の野菜や庭木を眺めながら季節の移ろいを感じられる。共用空間は食堂とソファースペースや畳の間のある開放的なフロアとなっている。キッチンからは入居者の動きや気配がよく見渡せる。壁面には行事の写真や季節に応じた作品などを華美にならない程度に飾り、落ち着いた環境作りをしている。入居者は、の中で、気の合う方と会話をしたり絵を描いたり、音楽やテレビを鑑賞したりしてのんびり過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーに座る場所が自然に決まっており、気の合う者同士、楽しそうに会話されている。自由に居室で過ごされている人もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は今まで自宅で使用していた物を持ち込んで頂く様をお願いしており、使い勝手の良いように入居時、家人と自由に配置している。	個々の状態に合わせてベットや家具の配置に配慮した環境を整えている。自宅で使い慣れたベットや筆筒、テレビなどを持ち込み安心して過ごせる環境作りをしている。また、愛着のある手作り作品や写真などを飾ったり、清掃や衣替えを職員と一緒に رفتりして居心地よく過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活ができるように、扉にトイレ、風呂等貼っている。安全に歩行、シルバーカー、車椅子移動もでき、スタッフが一目で見れるように配慮されている。		